

旭市・茅野市児童交流事業

旭市と長野県茅野市は昭和49年以来、姉妹都市として約40年間交流を続けてきました。

4年前の東日本大震災で旭市が甚大な被害を受けたときは、茅野市の皆さんからいち早く支援物資や義援金、励ましの言葉が贈られ、復興に取り組むエネルギーとなりました。それをきっかけとして、子どもたちの交流も始まりました。

昨年は、富浦小・矢指小・共和小の5年生30人が茅野市を訪れて、八ヶ岳を中心とする山の自然と歴史の体験学習をし、子ども同士の交流をしてきました。今年は、8月5日から7日までの2泊3日の日程で、茅野市の6年生32人が訪れ、本市の児童と海水浴など海の遊びを体験するとともに、津波防災の学習をしました。

茅野市児童の津波防災の学習

旭市防災資料館では、映像や紙芝居で津波の被害や復興に向けた市民の取り組みを学びました。また刑部岬展



茅野市・旭市児童による砂の彫刻の共同作品



七夕市民まつりには茅野市のキャラクター「ちーぼ」も参加

望館では雄大な海の景色を眺め、海風を感じるとともに、津波の体験談に耳を傾けていました。

旭市児童との交流

昨年、茅野市を訪れて山の自然と触れ合った旭市の児童たちは、茅野市の児童を迎えたとき、どのように旭の魅力を伝えたらよいか一生懸命に考えました。昨年訪れた3校の6年生34人が集まり、矢指ヶ浦海岸での砂の彫刻作りや海水浴、パークゴルフ場での体験を通して交流を深めることができました。

七夕市民まつりにも参加し、歴史学習も

茅野市の皆さんは、七夕市民まつりの開会式に参加し、茅野市の見どころを紹介してくれました。大原幽学記念館では、大原幽学と長野県との関わりを学ぶとともに、かやぶき屋根の林家住宅でお茶席体験をしました。

3日間、天候にも恵まれ、茅野市の皆さんに旭市の魅力を十分伝えられたものと思います。子どもたちが大人になっても、互いの自然や歴史・文化を理解し、尊重し合う関係を続けていってほしいと思います。

校長リレーエッセイ 15



「市内一笑顔のある学校」を目指して

共和小学校長
伊藤 兼道

本校は、明治8年設立の新町「威光院」と「私立鎌数学舎」を前身とし、今年度で創立140周年を迎えます。明治22年に新町・鎌数両村の統合合併時に「共同和合」の義を取り共和村として発足し、翌年に共和村立共和小学校と命名されました。その後も、共和の名称は受け継がれ今に至っています。

共和小学校の目指す学校像は「市内一笑顔のある学校」です。子どもたちの笑顔は、皆を幸せにする不思議な力

があります。そのことから、笑顔が溢れる学校であれば、活動意欲も高まり、知・徳・体の調和の図れた教育実践とともに、保護者や地域などから信頼される学校づくりが成されるものと考え、目指す学校像に掲げました。

そこで、笑顔になるための指導や支援として、子どもたちの言動を肯定的かつ受容的に捉えた対応をする。そして、子どもたちの努力している活動や態度への奨励や称賛をすることを行っています。また笑顔へ結び付く生活への指導や支援として「あいさつができる・掃除ができる・笑顔で生活ができる」を「きょうわ3D」と称し、子どもたちの生活基本として取り組んでいます。これは、将来の社会人・職業人となるためのキャリア教育の一環でもあります。

このような取り組みの充実には、保護者や地域などの支援や協力があってのことと考えています。そこで、これからもさらに連携を深めた活動を通して「市内一笑顔のある学校」を目指していきたいと思っています。